

式 辞

今年の冬は、特に寒さが厳しい日が続きましたが、ようやく春めいた日々がやってきました。

今日の良き日に、令和五年度卒業証書授与式を迎えられました39回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、本校に入学する前から今日まで、コロナ禍という苦境下にもかかわらず、積み重ねてこられた努力の結果、晴れて今日の卒業式を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。そして、今日まで皆さんを物心両面から支え、励ましてこられました保護者の皆様、関係者の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。また、今日という晴れの日に花を添えてくださいました、ご来賓の皆様にも厚く感謝申し上げます。ありがとうございます。

就職、進学という新たなステージへと進まれる皆さんに、2つのお話をして、饒の言葉としたいと思います。

1つ目は中国の故事に由来する言葉に、「人間万事塞翁が馬」という諺があります。人間と読まずにじんかんと読めば世の中、世間という意味になるそうですが、言葉の由来になったエピソードは同じです。昔、中国北方に住む古い巧みな塞翁という老人の飼っていた馬が、逃げて居なくなってしまいました。それを見た人々が彼のことを気の毒がると、塞翁は「そのうちに福がくる」と言いました。すると、その馬は、足の速い優れた馬を連れて戻ってきました。それを見た人々が祝うと、塞翁は「今度これは不幸の元になるだろう」と言います。しばらくして塞翁の息子は、その馬から落ちて足の骨を折ってしまうのです。気の毒がった人々がそれを見舞うと、塞翁は一転「これが幸福のきっかけになるだろう」と言い、1年後、戦争が起こったのですが、骨折した老人の息子は兵役を免れ、戦死しなくてすんだという話に由来する言葉です。

何事も「人間万事塞翁が馬」なのです。

長い人生では楽しいことや嬉しいこともあるけれど、辛いことや悲しいこともあるけれど、何が幸福で何が不幸かすぐに決まるものではない。みなさんも嬉しいときに自己を律して、辛いときや悲しいときには将来必ず幸せが訪れるものと信じて毎日を明るく元気に過ごしてほしいと思います。不幸なことは永遠に続きません。いつまでもくよくよ落ち込まず、ポジティブに、不運は未来の幸運の種ととらえてください。嘆くのはナンセンスです。

2つ目は、「運は自分で見つけるもの、拾えるもの」

と言う言葉ですが、誰の言葉かわかりますか？今シーズンから大リーグ野球の名門ドジャーズに移籍した、WBC 日本代表、MVP の大谷翔平選手の言葉です。

彼は、落ちているゴミを見つけると、「他人がポイッと捨てた運を拾っているんです。」と言います。

大谷選手は高校1年生のときに自分の将来の目標達成のための「目標達成シート」というものを作成しました。彼が定めた目標は、「8球団からドラフト1位で指名される」というものでした。そしてそれを実現するための行動目標として、「メンタル」や「スピード」「キレ」「体づくり」「人間性」など、8つのテーマを設けましたが、そのうちの一つに、大谷選手は「運」と記しています。

そしてその運を引き寄せる具体策として、「ゴミ拾い」「部屋そうじ」「あいさつ」「審判さんへの態度」「道具を大切に扱う」「プラス思考」「応援される人間になる」「本を読む」といった要素を挙げています。

大谷選手は、ゴミが落ちていたとき、拾わずに通り過ぎようとする、ゴミから「お前、それでいいのか？」と呼ばれているような錯覚に陥るといいます。今では、一つゴミを拾うたびに運がたまる。ゴミを見つけることが楽しみだと公言しています。

自分の良心に恥じない善行の積み重ねが、天運を引き寄せるのでしょう。彼の活躍を振り返ると努力と才能、実力はメジャーリーグでもトップクラスですが、努力と才能、実力だけでは、現在の大谷選手はなかったと思います。たとえ人並み外れた努力を行い、人間離れした才能に恵まれていたとしても、人間性が伴わず、運や、ツキから見放されて生涯を終えてしまう人は、スポーツ選手に限らず星の数ほどいると思います。才能、努力を生かすためには、運が必要であり、それを引き寄せる人間性が何よりも重要であることを彼は高校生の時にわかっていただけたのではないのでしょうか。

みなさんも、今日から運を拾ってみてはどうですか。この「人と環境の三木北」で培った周囲への思いやりや感謝、奉仕の精神を胸に、地道に実践していけば、必ず天は味方してくれると思います。

また大谷選手の印象深い言葉には、次のようなものがあります。

よくばろう！

やる前から、あきらめない！

無理だと思わないことが一番大事だと思います。

無理だと思ったら終わりです。

まずやってみて、もしそこで限界がきたら、自分のの実力はそこまでということ。

でも僕はやれることはすべてやりたいし、取れるものはすべて取りたいという人なので、とにかくやってみたいんです。

この言葉は、彼が投打の二刀流について普段考えていることについて語った言葉です。周囲の多く人々のほとんどが、投手と野手の二刀流は無理であると言い放ち、大谷選手を「若いヤツが何調子乗っているんだ?」と批判する声も多かったように記憶しています。それが、投打ともに世界のトップクラスの選手として活躍し2度の MVP に輝くなど誰も彼のこれほどまでの活躍を予想することができませんでした。しかし、今振り返って考えてみれば、目標シートを作り、計画的に人生を送ってきた大谷選手にとっては、投手と打者の二刀流、しかも世界最高峰のメジャーリーグにおいて夢を実現することは、決して不可能なことやギャンブルではなく、十分に実現の可能性を感じることができた自分の未来像だったのかもしれない。

やるのは自分、できると判断するか、無理だと諦めるのも自分です。一度しかない人生です。とことん欲張ろう、まずはやってみよう。やらずに後悔するなら、失敗して反省する方がずっと良いのではないのでしょうか。何度失敗しようがやり続ければ、その失敗は成功までの過程であって、失敗は決して無駄にはならないことを心に刻んでください。

話は変わりますが、もう少しだけ聞いてください。私は4年前、本校に教頭で着任し、その翌年、みなさんが入学されるタイミングで本校の校長になりました。ですから、校長としてはじめて入学を許可したのが39回生のみなさんです。そして、私は、今年度還暦を迎え、来月いっぱい役職定年する可能性が高いです。つまり、校長として最後に卒業証書を渡したのもみなさんなのです。教員生活の中でもみなさんと過ごしたこの3年間は、学校行事や修学旅行、本校の創立四十周年記念式典など特別なもので、特に印象が強く、そんな39回生のみなさんと今日でお別れかと思うと寂しい気持ちでいっぱいになります。ですから、もう一つだけ、校長としてと言うより、三木北高校で同じ時期に学んだ者としてのお願いとして話しておきたいと思います。

明日からは、今日までの三年間のように、みなさんを、毎日傍でサポートすることはできなくなりますが、私たち三木北高校の教員一同、いつもみなさん一人一人のことを気にかけ、忘れず、遠くで見守っています。そのことを決して忘れないでほしいのです。遠くで見守るとは言っても、突き放すわけでも、完全に独り立ちを強要するのでもありません。何を頑張っても良いやら路頭に迷ってしまいそうになったり、頑張っても頑張っても、どうにもならないときは、無理せず私たちを頼ってください。頑張ることと、無理することは全く違います。気持ちが折れそうになったり、つらいときや苦しいとき、また悲しいときには弱音を吐きに來てください。

三木北高校はあと三年で統合し三木総合高校に生まれ変わりますが、卒業生の皆さんの新たな母校として守り育てていくことが、私たち残されたものたちの使命だと確信しています。教員、在校生が中心となって、三木北高校の特色、伝統などをしっかり引き継いでいきます。皆さんが、いつでも、いつまでも足を運んで会いに来てくれるような、新たな素晴らしい母校を作っていくことをお約束します。近い将来、この三木北高校で、また、統合後の三木総合高校で、卒業生のみなさんと再会できることを楽しみにしています。そのとき、みなさん一人一人が、健康で幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られていることを心から願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様、改めまして、お子様のご卒業おめでとうございます。この三年間、本校の教育活動にご理解とご協力いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

高校を卒業され、社会へ一歩踏み出すことで心配なことも増えますが、大人へ向けて大きく成長するとても楽しみな時期でもあります。今後とも温かく見守っていただきますようお願いいたします。

令和六年二月二十九日

兵庫県立三木北高等学校
校長 田中 良季

